

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100%）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80%以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60%程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60%程度未満）

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
9. 社会連携・社会貢献 【計画48】（企画部） 医療・健康・保健面において地域を指向して教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図る。 「計画達成のための方策」 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。 「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況	Ⅲ	・全学的な社会連携・社会貢献の取組の実態が不明なことから、学長戦略本部において、「地方公共団体、企業、関連病院等との連携・協力による地域の課題解決に向けた各種取組状況」について各部局に対し調査を行った結果、企業、行政機関、消防団、医師会、病院、看護協会、学校、財団、自治会、社会福祉協議会、地域実行委員会、防災協議会、プロスポーツチームなどとの多岐にわたる連携事業を各部局単位あるいは教員個人単位で連携していること、また特定の教員グループ・教員個人単位で多数の連携事業を行っており負担が増大していること、事業経費については連携先からの事業支援は少なく、大学や教員の持ち出しが多い等の課題も見えてきた。 ・これらの課題解決のため、総合研究所の組織強化及び学長戦略本部に「研究力強化会議」を設置し学内の体制強化を図るため、「東京医療保健大学の研究推進、外部資金獲得及び研究インテグリティを確保する体制の整備に関する要綱」を策定し、令和6年2月21日開催の学部長等会議において審議・承認されたことから、今後具体的な取組を進めていくこととした。	【年度計画48】 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。 「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況	Ⅲ	・令和6年度も昨年度に引き続き、学長戦略本部において、「地方公共団体、企業、関連病院等との連携・協力による地域の課題解決に向けた各種取組状況」について各部局に対し調査を行った結果、引き続き、企業、行政機関、消防団、医師会、病院、看護協会、学校、財団、自治会、社会福祉協議会、地域実行委員会、防災協議会、プロスポーツチームなどとの多岐にわたる連携事業を各部局単位あるいは教員個人単位で連携していること、また特定の教員グループ・教員個人単位で多数の連携事業を行っており負担が増大していること、事業経費については、例えば「新宿区役所からの性感染症普及啓発アウトリーチ型支援の委託事業」では所要の経費を確保できているが、連携先からの事業支援は少なく、大学や教員の持ち出しが多い等の課題が確認できた。 ・社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制としては、令和5年度において、学長戦略本部に「研究力強化会議」を設置したところであるが、少子化の影響により益々学生確保が難しい状況の中では、学内予算に頼らない地域貢献活動が実施できるようにするために、引き続き「研究力強化会議」での検討を行い地域貢献活動を推進していく必要がある。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画49】(企画部・各事務部) 大学が所在する地方自治体との連携を強化し、共催・後援による公開講座等や各種事業を推進する。 「計画達成のための方策」 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。 「評価指標」 ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数	IV	・公開講座の実施については、令和5年6月29日に開催した「全学公開講座委員会」において、大学のPRとして学生募集につながる取組を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、事前の広報活動や当日の人員配置等についても各キャンパスが主体的に対応すること等を定めた令和5年度公開講座実施方針について承認され、それぞれのキャンパスにおいて実施された。 ・「産後ケア事業」の推進については、【計画66】を参照のこと。 ・また、各キャンパスにおいて以下のとおり地域性を考慮した各種事業を推進した。 (五反田事務部) ・医療保健学部看護学科と品川消防署消防団は昨年に引き続き、令和5年10月25日に入団辞令交付式を本学にて実施した。辞令交付式には学生団員11名、品川消防団長等、亀山学長が参加した。 ・品川区立第三日野小学校で発展学習として学んでいる「防災」の一部として、臨床看護学急性期領域の教員が防災講習を実施した。 ・令和4年度に医療保健学部看護学科の付属施設として設置された「地域健康づくり研究・教育センター」の活動として令和5年度も地域と連携した様々な活動を実施し、報告書をまとめ第5回大学経営会議の資料として周知した。 (世田谷事務部) ・6月に、世田谷区教育委員会と連携して体験学習「食品から色を取りだして調べよう！」（食品に含まれる合成着色料の種類を調査）を三宿小学校で実施。児童40名、教員1名、学生5名参加。	【年度計画49】 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。 「評価指標」 ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数	III	・公開講座の実施については、令和6年7月29日に開催した「全学公開講座委員会」において、昨年度に引き続き、大学のPRとして学生募集につながる取組を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、事前の広報活動や当日の人員配置等についても各キャンパスが主体的に対応すること等を定めた令和5年度公開講座実施方針について承認され、それぞれのキャンパスにおいて実施された。 ・「産後ケア事業」の推進については、【計画66】を参照のこと。 ・また、各キャンパスにおいて以下のとおり地域性を考慮した各種事業を推進した。 ・なお、現在の公開講座は無償で開催しているが、例えば五反田キャンパスで開催する公開講座は、品川区との共催事業とすることで区からの補助金を確保し実施していることから、今後は学内予算に頼らない持続可能な公開講座が実施できるために、その在り方を検討していく必要がある。 III (五反田事務部) ・医療保健学部看護学科と品川消防署消防団は昨年に引き続き、令和6年11月6日に入団辞令交付式を本学にて実施した。辞令交付式には学生団員22名、品川消防団長等、亀山学長が参加した。学生団員は昨年度の2倍となった。 ・医療保健学部看護学科地域健康づくり研究教育センターは学生のボランティア活動に力を入れており、令和6年10月13日に品川区の認知症啓蒙活動の一環として開催された「オレンジフェスタ2024」に多くの学生が参加し、地域住民と協働し積極的な活動を行った。 ・その他学生が参加した地域活動は以下のとおりである；令和6年8月25日あいおい夏祭り（五反田キャンパス周辺町内会主催）、10月12日せせらぎ祭り（品川区老人ホーム）、10月27日春光まつり（品川区老人ホーム）、11月3日ファーム・エイド東五反田 IV (東が丘看護学部) ・10月13日、「目黒区民まつり」に学生・教員ボランティア15名が参加、舞台イベント運営の裏方として協力した。 ・10月27日、目黒区子育て支援課主催「第14回めぐろ子育て交流ひろば0123」にて教員3名による救急救命講座、乳幼児の「心と体の発達」に関する講座を実施した。来場者は389名（子供含む） ・11月23日、目黒区教育委員会連携講座「放射線を正しく怖がる」を教員1名、院生2名にて実施、区民を中心に34名に聴講いただいた。 また、教員2名が各々目黒区の生涯学習推進協議会メンバー、自殺対策推進会議会長に加え、精神保健医療福祉推進協議会委員として活動、また公民連携プラットフォームに参加し、目黒区との交流を強化した。その他、適時、目黒区主催イベントに対する告知協力をしている。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		(千葉看護学部) ・船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業について、「ふなばし夏のボランティア」の案内を5月に、「マナフェス」ボランティア案内を10月の計2回実掲示した。各活動の参加実績は把握していない ・11月5日 ふなばし健康まつりに学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。参加人数は教職員9名、学生32名でした。 ・地域交流イベント2023を3月24日に開催し254名の参加者があった。 (和歌山事務部) ・和歌山市と共催し、9月16日（土）雄湊キャンパスにおいて「がまんしていませんか？その痛み！ー月経障害についてみんなで知ってやわらげようー」と題し公開講座を実施した。本学部福山教授の講演や和歌山市保健所の保健師など2名による和歌山市の現状説明を行い。市民43名（オンライン12名）の参加いただき月経痛を緩和する体操方法を紹介、一緒に行った。 ・和歌山市が主催する学生支援プロジェクトに参加、学生4名、教員2名、事務職員1名が参加し、ブースにおいて看護演習体験等を行い、参加中学生（会場参加440名）に将来の進路の情報提供を行った。		Ⅲ	(立川事務部) ・立川市との共催による高齢者の健康維持やメンタルケアなど立川市の健康づくりに資する市民公開講座を毎年開催し、11月開催の「脳」をテーマにした市民公開講座は、市民参加者91名、教員5名・職員3名・学生3名の参加により、市民のニーズに合致し満足度が高く有意義された講座を開催した。 ・地域の声を警察業務に反映するための立川警察署協議会に参画し、大規模災害時や地域の安全に関する問題について、立川看護学部が地域・警察と協働して対応することに向けた取り組みを行っている。 ・震災発生後に医療救護に関する支援を行う立川看護学部学生で構成する立川市消防団機能別分団活動や立川地域の住民がお互いを思いやり、支え合い、安心して暮らすことができる街づくりに資する活動を行う立川市日赤奉仕団において、学生の参加、教職員による活動支援を行うなど学生と教職員の一体的、機動的に連携して取り組みを行っている。				
				Ⅲ	(和歌山事務部) ・和歌山市と共催し、医愛祭と同日の11月2日（土）雄湊キャンパスにおいて「未来のために今知ろう！男性更年期障害」と題し、公開講座を実施した。本学部教授の講演や和歌山市保健所職員が和歌山市の健康課題などの説明を行い、市民27名に参加いただき、男性更年期障害の概要、生活習慣の大切さ等が伝えられた。 ・和歌山市が主催する学生支援プロジェクトin市高に参加（教職員3名）、就職・進学ワークショップを出店、ブースにおいて看護演習体験等を行い、市立和歌山高校の高校生(30名)に対し、情報提供を行った。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画50】（企画部・各事務部） 保健医療関係機関等との連携協力により、医療現場の今日的な課題解決等を図るため、各種連携事業等を推進する。 「計画達成のための方策」 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各種協働事業等を推進する。 「評価指標」 ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況	Ⅲ	（東が丘事務部） ・人事交流では臨床教授5名が就任、非常勤講師21名に授業を担当いただいている。実習施設として大学院助産をはじめ学部・学科全体で延346名が利用するなど協働事業は進展・拡大中である。 国立病院機構とも定期的な会合を持ち、密な連携を継続している。 ・NH0本部の副理事長の人事交代により、昨年11月末の「NPフォーラム」への本部職員参加者数が増え、フォーラム終了後、全国のNH0施設に本部から診療看護師の業務基準に係る調査がなされ、NPに対する関心が高まり、地域に勤務している修了生からの反応があり、従来に比し密な関係が推進された。 <							

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画51】（五反田事務部・感染制御学教育研究センター） 大学院研究科における研究の取組を紹介するための公開講座の実施や保健医療機関等からの要請に基づく感染制御実践看護学講座及び感染制御学企業人支援実践講座等を実施する。									
「計画達成のための方策」 大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施により、より参加しやすい環境を整備する。	Ⅳ	（五反田事務部） 医療保健学研究科では平成27年度より研究科公開講座を企画・実施しており、令和5年度は以下のとおり実施した。 日時：令和5年7月8日（土） テーマ：先をみる医療ー地域包括ケア時代の課題と展望 例年、研究発表、教育講演、特別講演のプログラム構成であったが、今回は教育講演及び特別講演の講演者を登壇者としたパネルディスカッションの時間を設けた。 昨年度と同様Zoomでの開催とし、209名の申込者があり、うち180名が当日参加した。アンケート結果も好評であった。	【年度計画51】 大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施により、より参加しやすい環境を整備する。	Ⅳ	（五反田事務部） 医療保健学研究科では平成27年度より研究科公開講座を企画・実施しており、令和6年度は以下のとおり実施した。 日時：令和6年7月6日（土） テーマ：先をみる医療ー医療DXとヘルスケアの未来ー プログラム構成は本学研究科修了生による研究発表、教育講演、特別講演とした。 昨年度と同様Zoomでの開催とし、235名の申込者があり、うち190名が当日参加した。アンケート結果も好評であった。				
「評価指標」 ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数	Ⅲ	（感染制御学教育研究センター） 1. 感染制御実践看護学講座 同センターでは保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、平成22年より「感染制御実践看護学講座」を実施しており、令和5年度に第14回を以下のとおり実施した。 ・期間：令和5年4月22日（土）～10月28日（土） ・受講者数：23名（申請者数は45名であり書類審査及び筆記試験により選抜を行った） 2. 感染制御学企業人支援実践講座 同センターでは企業等において感染制御に関する業務に携わっている者や医療機器や医薬品等の製造・販売に関する企業を対象に、感染制御学の基礎と最新の情報や医療現場の取組などを学ぶ実践的な講座として平成25年から実施している。令和5年度も募集を行ったが申請者がいなかったため実施しなかった。	「評価指標」 ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数	Ⅲ	（感染制御学教育研究センター） 1. 感染制御実践看護学講座 同センターでは保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、平成22年より「感染制御実践看護学講座」を実施しており、令和6年度に第15回を以下のとおり実施した。 ・期間：令和6年4月19日（金）～10月26日（土） ・受講者数：19名 本講座修了生を対象にフォローアップ研修会「AMR対策について」を令和7年3月14日（金）にZoomにて実施し、78名が受講した。 2. 感染制御学企業人支援実践講座 同センターでは企業等において感染制御に関する業務に携わっている者や医療機器や医薬品等の製造・販売に関する企業を対象に、感染制御学の基礎と最新の情報や医療現場の取組などを学ぶ実践的な講座として平成25年から実施している。令和6年度も募集を行ったが申請者がいなかったため実施しなかった。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画52】（学長戦略本部、各事務部） 本学を卒業した医療人等の生涯学習の場づくりを支援するため、「ポータルサイト」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で情報交換等が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設し、継続教育の機会を提供する。 「計画達成のための方策」 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。 「評価指標」 ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数	Ⅱ	・学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェクトチームにおいて、全学共通の卒業生向けのポータルサイトを開設するための検討を行い、まずは医療栄養学科の卒業生にそのニーズ調査を実施した。調査の結果、84名の回答があり、 ①大学訪問理由については、教員訪問、医愛祭参加、セミナー参加、証明書発行のためが上位を占めた。 ②大学に求める情報については、転職情報、セミナー情報、大学イベント情報、現在の大学に関する情報が上位を占めた。 ③卒業生専用ページに求めることについては、証明書発行手続き、転職の相談、セミナーの申し込み、資格取得の相談、現在の業務に関する相談、卒業生同士の交流が上位を占めた。 ・令和6年度は、看護の分野等においても同様の調査を実施した上で、全学的な卒業生のニーズを踏まえたポータルサイトの具体的な制度設計を進めることとする。	【年度計画52】 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。	Ⅰ	・学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェクトチームにおいて、全学共通の卒業生向けのポータルサイトを開設するため、昨年度は医療栄養学科の卒業生にそのニーズ調査を実施し、令和6年度は看護の分野等においても同様の調査を実施した上で、全学的な卒業生のニーズを踏まえたポータルサイトの具体的な制度設計を進めることとしていたが、学内予算環境が急速に厳しい状況となり、当面、卒業者向けのポータルサイトの設置の検討は中断することとした。 ・今後のポータルサイトの具体的な制度設計の検討については、令和8年度以降の財務状況を踏まえつつ、再開することとする。				
	Ⅲ	（五反田事務部） ・医療保健学部看護学科ではHomecoming Dayを開催しており、令和5年度で7回目となった。在校生等との交流会だけでなく、病院や医療センターで活躍している卒業生数名を招き、トークセッションの時間を設け、生涯学習支援講座としての内容も含んでいる。 ・令和5年度は福祉グループ、病院等から3名の卒業生を招き4年ぶりに対面で実施し、卒業生26名、在学生8名、教職員等28名、計62名が参加した。	「評価指標」 ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数	Ⅲ	（五反田事務部） ・医療保健学部看護学科ではHomecoming Dayを開催しており、令和6年度で8回目となった。在校生等との交流会だけでなく、病院や医療センターで活躍している卒業生数名を招き、トークセッションの時間を設け、生涯学習支援講座としての内容も含んでいる。令和6年12月23日に「わたしが会いたかったわたしへ～多様な働き方・生き方を考える」をテーマに実施した。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
	評価区分			評価区分		評価区分		評価区分	
【計画53】（各事務部、学生支援センター） 医療系の大学で学ぶ学生として社会貢献・社会活動に関する意識の涵養及び学習意欲の向上を図るとともに、地域との交流を深め地域社会の発展に寄与するため、学生のボランティア活動への積極的な参加を奨励する。 「計画達成のための方策」 組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。 「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況	IV	（五反田事務部） ・医療保健学部看護学科では、昨年度設置した「地域健康づくり研究・教育センター」が中心となり、学生と行う社会貢献事業、品川区役所と大学教員との連携・社会貢献事業、地域組織とともに行う活動等、様々な活動を積極的に行った。	【年度計画53】 組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。	III	（五反田事務部） ・医療保健学部看護学科では、昨年度設置した「地域健康づくり研究・教育センター」が中心となり、学生と行う社会貢献事業、品川区役所と大学教員との連携・社会貢献事業、地域組織とともに行う活動等、様々な活動を積極的に行った。				
	III	（世田谷事務部） ①世田谷区と連携し区立の教育機関における部活動等支援要員募集の定期的な案内実施、②キャンパス周辺の地区ボランティア団体広報誌等の掲示。	「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況	III	（東が丘事務部） ・学生ボランティアの支援体制は引き続き学生生活委員会及び事務部が窓口となり活動を実施した。 学生ボランティア活動として①目黒消防団活動150名弱、②東京医療センター七夕飾りイベント6名、③目黒区民まつり14名+教員1名、④アロマ石鹸づくり1回実施9名、⑤目黒区連携公開講座年1回2名が参加した。（記述の一部を計画49に移動） （立川事務部） 震災発生後に医療救護に関する支援などを行う立川市消防団機能別分団活動や立川地域の住民がお互いを思いやり、支え合い、安心して暮らすことができる街づくりに資する活動を行う立川市日赤奉仕団活動など、学生の参加と教職員による活動支援を行うなど学生と教職員が一体的、機動的に連携した取組みを行っている。				
	III	（千葉看護学部） ・「ふなばし健康まつりの情報」「地域交流イベントの情報」を学生に周知して学生がボランティア活動を行えるよう支援した。それぞれのイベントには学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。 参加人数は、ふなばし健康まつり：教職員9名、学生32名、地域交流イベント：教職員37名、学生74名		III	（千葉看護学部） ・「ふなばし健康まつりの情報」「地域交流イベントの情報」を学生に周知して学生がボランティア活動を行えるよう支援し、学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。 参加人数は、ふなばし健康まつり：教職員3名、学生23名、地域交流イベント：教職員38名、学生78名				
	III	（和歌山事務部） ・令和4年度に日赤和歌山県支部との連携・協力のもと結成した「東京医療保健大学和歌山看護学部赤十字奉仕団」は合計36名の学生が所属し、日赤県支部の活動に参加するなど、自分たちで企画した市立図書館でのイベントを行い、活発に活動した。 ・和歌山市主催の紀州おどり「ぶんだら節」（46名参加）、和歌山市社会福祉協議会が主催する社協まつり（7名参加）など地域のイベントにも積極的に参加した。 ・和歌山市消防署との共催による多数傷病者訓練を雄湊キャンパスにて実施、学生49名が傷病者役などを行った。また、令和5年度緊急消防隊近畿ブロック合同訓練（学生31名参加）など地域大規模災害訓練にも多くの学生が参加した。		III	（和歌山事務部） ・日赤和歌山県支部との連携・協力のもと結成した「東京医療保健大学和歌山看護学部赤十字奉仕団」は合計43名の学生が所属し、日赤県支部の活動に参加するなど、活発に活動した。令和6年7月には本学部学生の献血活動に対し、和歌山県から知事感謝状が送られた。 ・和歌山市主催の紀州おどり「ぶんだら節」（38名参加）、和歌山市社会福祉協議会が主催する社協まつり（8名参加）など地域のイベントにも積極的に参加した。また、地域商店街を活性化する目的の「みそのマルシェ」に本学部学友会が出店、イベントを盛り上げた。 ・和歌山市中消防署との共催による多数傷病者訓練を雄湊キャンパスにて実施、学生37名が傷病者役などを行った。また、日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練（学生60名参加）など地域大規模災害訓練にも多くの学生が参加した。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画54】（学長戦略本部・総合研究所、研究協力部） 教育・研究の充実・発展を図るため、産・学・官等との共同研究や受託研究の推進及び科学研究費等補助金の申請等により、外部資金を確保する。 「計画達成のための方策」 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。 「評価指標」 ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数 【計画55】 【計画32の再掲】（国際交流センター、研究協力部、各事務部） 学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。 「計画達成のための方策」 1. 学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れを積極的に行うため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を実現できるよう両大学に積極的に働きかける。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。	Ⅲ	・令和5年度の共同研究の新規契約件数は4件(令和4年度：5件)、受託研究の新規契約件数は7件(令和4年度：8件)であり、依然としてコロナ禍の影響はあったが、共同研究及び受託研究とも昨年度とほぼ同件数を確保した。 ・また、令和5年度科学研究費等補助金等の申請件数は43件（令和4年度：41件）、採択件数は8件（令和4年度：8件）であり、申請件数は前年度を2件上回り、採択件数は前年度と同件数を確保したところである。	【年度計画54】 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。 「評価指標」 ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数	Ⅲ	・令和6年度の共同研究の新規契約件数は6件(令和5年度：4件)、受託研究の新規契約件数は6件(令和5年度：7件)であり、共同研究及び受託研究とも昨年度とほぼ同件数を確保した。 ・また、令和6年度科学研究費等補助金等の申請件数は42件（令和5年度：43件）、採択件数は13件（令和5年度：8件）であり、申請件数は前年度を1件減少、採択件数は前年度から5件増加した。なお、令和7年度は申請件数については、令和6年度42件から、令和7年度60件と大幅に増加した。				
	Ⅲ	（国際交流センター、研究協力部） 1. グリフィス大学との大学間連携の更新は、グリフィス大学担当者の変更によって作業が遅れたためできなかったが、次年度4月中に更新は完了する予定である。同大学との海外研修プログラムに関しては、令和5年9月に第5回グリフィス大学オンライン研修を実施し16名が参加した。さらに令和6年3月に4年半ぶりにグリフィス大学現地研修を実施した。参加者は46名と近年で最多であった。参加学生に対する実施後アンケート調査（回答者38名、回答率82.6%）では、研修プログラム全体に対する評価は「大変満足」「まあまあ満足」を合わせると100%であった。 ・ハワイ大学、およびシャミナード大学との提携は、両大学の教職員スタッフの大幅な変更などにより、本学との研修プログラムは一時休止状態となっている。今後どのような連携やプログラムを実施できるか、両大学と模索中である。 ・中国の燕山大学からの申し入れを受けオンライン交流会を令和5年12月に実施した。両大学各10名ずつ、20名が参加した。	【年度計画55】 1. 大学間提携大学との連携関係をさらに深めるために、協力的なプロジェクトについて提携大学と検討し、提携内容をさらに充実させる。	Ⅳ	（国際交流センター、研究協力部） 1. 令和6年5月にオーストラリアのグリフィス大学との3年間の大学連携協定を更新した。令和6年9月にグリフィス大学オンライン研修、令和7年3月にはハワイ大学現地研修を実施した。9月のグリフィス大学オンライン研修では、学部生・研究科生・教員16名が参加し、オーストラリアの医療、看護、臨床栄養、医療情報について講義を受けた。実施後アンケートでは100%が、「現地研修に参加できないが、海外の医療に関して学びたいと思っている学生たちにとっては、オンライン海外研修は効果的な学習の機会を提供するもので、今後も継続を望む」と回答している。 ・令和7年3月のハワイ研修に関しては、従来研修で連携していたハワイ大学看護学部やシャミナード大学が学部内再編のために受け入れが困難ということで、ハワイ大学アウトリーチカレッジが実施している2-week New Intensive Cours of English(NICEプログラム)に希望学生を派遣することになった。23名の学生が参加して、2週間の集中英語講座に参加した。宿泊は学生の希望によりハワイ大学の寮あるいはホームステイが選択された。実施後アンケートでは、研修全体に対する満足度は、大変満足71%、まあまあ満足29%を合わせると100%、同じく100%がこの研修を他の学生にも勧めたいと回答し、非常に高評価を得た。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
「評価指標」 ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況		IV 2. (国際交流センター、研究協力部) 令和5年度には4回の国際的な講演会を実施した。9月に Bangladesh の医師 S. A. ナイーム氏を五反田キャンパスに招いて、対面およびオンラインの特別講演会「Bangladesh の医療・介護の現状と未来」を実施した。申込者数133名。またオンラインによる3回にわたるリレー講演会を以下の通り実施した。（申込者数173名）10月：「アメリカの医療事情」（講師：安西耕氏）、11月：「国際比較からみる女性特有の健康課題」（小川真里子氏）12月：「ベトナムの医療現場から考える国際医療協力」（講師：森山潤氏、勝山なおみ氏）申込者数173名。 IV (世田谷事務部) ・9月に台湾秀傳医療グループの病院、老人ホーム、産後ケア施設を訪問（医療情報学科、学生5名/教員2名） III (千葉事務部) 「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。 「Bangladesh の医療・介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。 中国燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。 III (和歌山事務部) ・学術交流協定を締結しているナムディン大学の卒業生で医療従事者2名（ベトナム人介護士）と学部生5名、大学院生1名が参加し交流会を開催した。	「評価指標」 ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度及び協力的なプロジェクトの実施状況 ・国際的な講演会等の開催状況		IV 2. (国際交流センター、研究協力部) 令和6年度の国際講演会の計画は以下の通り3回の国際講演会をオンライン実施した。 10月22日：「フィンランドはなぜ世界一幸せな国に選ばれ続けるのか」（講師：久末智実 タンペレ大学博士課程在籍中）。11月16日：「多職種間のチームワーク・コミュニケーションを向上させるシミュレーション訓練」（講師：Dr. Lorrie Wong ハワイ大学看護学部教務担当副学部長）。12月10日：「アフリカでの経験から看護師の視点で考える国際保健への貢献とキャリア開発」（講師：坂本琢美 メブラジャパンコンサルタント／長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科）申込者数117名。 (和歌山事務部) ・近畿圏内に在住の外国人医療従事者（ベトナム）3名と本学部学生12名が参加し交流会を開催した。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○医療保健学部看護学科 【計画56-1】 ㊦ 地域貢献事業の展開及び地域活動を通して学ぶプログラムを実施する。 「計画達成のための方策」 1. 令和5年まで年間9回（大学体育館5回、八潮4回）の健康づくり事業を継続実施する。 2. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する 3. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。 「評価指標」 ・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年9回（五反田5回、八潮4回）） ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年20名の学生実習）	III	1. 健康づくり事業を前年度のオンラインから対面形式へ、また事業全体（準備、実施内容、終了まで）を学生がグループで分担して計画立案・実施するよう変更して実施した。対面形式での実施は3年ぶりであったため、開催場所を大学体育館のみとして計5回行った。参加者は30～90歳代の延べ116名（実人数39名）であった。学生は参加者と積極的に交流し、地域住民の健康や生活状況について学びを深めるとともに、地域で自分らしく暮らすために学生として、看護職としてできることについて考える機会となった。 2. 「NPO法人ふれあいの家 おばちゃんち」についての講義を受けた後、学生（19名）は2～3名に分かれ「にじっこ」、「北浜こども冒険ひろば」、「しながわこども冒険ひろば」等の子育て支援事業へ参加した。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じて地域における子育て支援の実践を学んだ。	【年度計画56-1】 1. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する 2. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。 「評価指標」 ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年19名の学生実習）	IV	1. 健康づくり事業を大学体育館（対面形式）にて全5回実施した。各回の実施計画および事業運営は学生がグループで分担して行った。参加者は50～90歳代の延べ189名（実人数52名）であった。学生は積極的に参加者と交流し、地域住民の健康や生活状況について理解するとともに、この学びをもとに、学生として、また看護職としてできることについて学びを深めた。 2. 「看護の統合実習」にて4年生18名が、「公衆衛生看護学演習Ⅲ」にて3年生20名が、「NPO法人ふれあいの家 おばちゃんち」が実施する子育て支援事業（品川宿おばちゃんち「ほっぺ」、ほっと・サロン・にじっこ、北浜こども冒険ひろば、しながわこども冒険ひろば）に参加した。実習・演習において、学生は子育て支援の実践を学ぶとともに、未就学児・小学生との外遊び、保護者および各事業のスタッフとの交流を通じ、地域で子育てする家族の生活や思いについて理解を深めた。 3. 地域ボランティアの学生募集については、次のとおり参加している。 (1) 東五反田地域 あいおい夏祭り 学生15名 教員2名 (2) 若年性認知症当事者就労支援ジャムづくりの話し合い 教員2名 (3) 第6回わっと！つながるみんなの未来 ファーム・エイド東五反田 事前打ち合わせ6回参加(学生1名・教員1名) 当日の参加（学生20名・教員2名） 学会発表：2024年11月9日(土) 第24回 日本早期認知症学会学術大会 一般演題発表 演題名：地域連携と地域共生社会：「わっと！つながるみんなの未来 ファーム・エイド東五反田」の取り組みと展望 発表演題に対し、研究奨励賞を受賞した。 (4) オレンジフェスタ（品川区認知症啓蒙活動）学生8名・教員1名参加 (5) 品川区健康フェスタ 学生20名・教員2名が、運営会議から関わり参加 これらのボランティア活動をととして、地域住民からその生活を知り、看護職として何が必要となってくるかを考える機会となった。 4. 地域健康づくり研究・教育センターの活動については、【計画56-3】に記載する。	IV			

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画56-2】 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修を実施する。 「計画達成のための方策」 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和5年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。 「評価指標」 ・研修の実施状況 【計画56-3】（令和5年度より新規） 全国・東京都・品川区等の各自治体や地域組織・住民と連携協働し、保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を展開し、また、学内外における保健・健康づくりに関する研究・教育の拠点となることを目指す。 「計画達成のための方策」 地域健康づくり研究・教育センターを立ち上げ始動する。 1. 品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター 町会・自治会 地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携(生活科 ボランティア等)	I	1. ダッカの高齢者介護施設の責任者が9月に来日し、その講演会に参加した。資金および実習受け入れ先の見通した立たず、研修計画の立案は断念した。 本計画は2023年度までとしており、今年度で活動を終了する。	【年度計画56-2】 1. 研修の実施 (令和6年度で活動終了) 「評価指標」 ・令和5年度の研究計画立案時に参加人数の見通しを立てる。	I	1. ダッカの高齢者介護施設が完成し、12月にメンバーがダッカを訪れ、オープニングセレモニーに参加した。研修計画に関する活動は昨年度で終了しており、今後は先方のニーズを聞きながら連携の可能性を探っていく。				
「計画達成のための方策」 地域健康づくり研究・教育センターを立ち上げ始動する。 1. 品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター 町会・自治会 地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携(生活科 ボランティア等)	IV	・品川区や地域と連携を組み活動したり、東京都、エイズ予防財団や日本性感染症学会など広く外部組織とも関係を持ちながら保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を行った。 1. 品川区との連携 (1) 健康大学しながわ（品川区事業） ・地域健康づくり活動グループ支援運営委託 運営会議・連絡協議会 4回/年実施 ・地域活動グループ活動事業評価： アンケート調査用紙の作成 1回、評価作成 1回の計 2回/年実施 (2) 品川区図書館からの依頼 東京医療保健大学×荏原図書館連携事業 講演会実施 阿部先生 (3) 品川区総務部総務課 平和・国際担当連携 (4) 品川区大崎地域第一センター 町会自治会連合会事業 講演会実施「コロナ禍でもできる地域の絆づくり～まちで楽しく過ごすためのマナー・防災かるたづくり」渡會 その他会議2回実施 (5) 品川区立第三日野小学校との連携(生活科ボランティア等) 大学見学ツアーの実施 打合せ等2回実施 (6) オレンジフェスタ(品川区認知症啓蒙活動) 学生19名参加	【年度計画56-3】 地域健康づくり研究・教育センターとして活動する。 地域健康づくり研究・教育センターを立ち上げ始動する。 1. 品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター 町会・自治会 地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携(生活科 ボランティア等)	IV	・地域健康づくり研究・教育センターとして、品川区や地域と連携し活動したり、東京都、エイズ予防財団や日本公衆衛生学会・日本性感染症学会など広く外部組織とも関係を持ちながら保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を行った。 1. 品川区との連携 (1) 健康大学しながわ（品川区事業） ・地域健康づくり活動グループ支援運営委託 運営会議・連絡協議会 4回/年実施 ・地域活動グループ活動事業評価： 2回/年実施 ・健康大学しながわ健康フェスタの開催（東京医療保健大学五反田キャンパスで2月15日（土）に開催した） (2) 品川区総務部総務課 平和・国際担当連携 (3) オレンジフェスタ(品川区認知症啓蒙活動) 学生8名参加 (4) しながわ健康プラン21策定 副委員長 教員1名 年4回 会議 (5) 品川区フォスティング機関 里親認定前研修への連携支援（講師派遣等）				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
2. 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等、地域との連携業務 ・東五反田ファーム・エイド あいおい夏祭、ジャムづくり		2. 品川区の地域との連携 (1) 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等 ・第5回わっと！ つながるみんなのみらいファーム・エイド 事前打ち合わせ6回参加(学生1名・教員1名) 当日の学生12名参加 ・東五反田あいおい夏祭り 学生15名・教員2名参加 ・東五反田倶楽部ジャムづくり 学生2名・教員2名参加 (2) 八潮地区総合防災訓練 学生7名・教員1名参加 (3) 品川で性教育を考える会 研修会5回参加、うち講師1回実施	2. 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等、地域との連携業務 ・東五反田ファーム・エイド あいおい夏祭り、ジャムづくり		2. 品川区の地域との連携 (1) 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等 ・第6回わっと！ つながるみんなのみらいファーム・エイド 事前打ち合わせ6回参加(学生1名・教員1名) 当日の参加(学生20名・教員2名) ・東五反田あいおい夏祭り 学生15名・教員2名参加 ・東五反田倶楽部ジャムづくり 教員2名参加 (2) 八潮地区総合防災訓練 選挙と重なり中止 (3) 品川区健康フェスタ 学生20名・教員2名が、運営会議から関わり参加 (4) しながわみんなで想う橙プロジェクト～オレンジフェスタ2024～(品川区認知症啓蒙活動) 学生8名・教員1名参加 (5) 品川区 地域第一センター 町会自治会連合会事業 地域共生社会を目指す「地域マナー&防災かるた」の作成と活用カルタ活用方法検討 (6) 品川で性教育を考える会 研修会5回参加、うち講師1回実施 (7) 品川区フォスタリング機関 里親認定前研修 講師 教員1名				
3. 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業(東京都委託事業)への学生・教員協力 ・青少年施設(中学生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点4T」事業 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業		3. その他活動 (1) エイズ予防財団主催 エイズデー渋谷街頭キャンペーン 学生6名・教員1名参加 (2) 日本性感染症学会 シンポジスト登壇 学会スタッフ 学生26名・教員2名参加 3. 東京都委託事業への学生・教員協力 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業 ・青少年施設(中学生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点ふぉーてぃー」事業 40回/年実施 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 80回/年実施 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 12/9豊島区中池袋公園にて実施 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業の実施 2回/月	3. 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業(東京都委託事業)への学生・教員協力 ・青少年施設(中学生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点4T」事業 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業		3. 東京都・都内品川区以外自治体との連携(アドバイザー・講師等) (1) 東京都 行政職員・地域専門職向け青少年エイズ対策事業研修会 講師 (2) 東京都特別区 特別区専門研修 中堅保健師研修会 講師派遣 (2) 東京都・世田谷区健所・品川区保健所・目黒区保健所、エイズ予防財団と共同した、医愛祭での展示によるエイズ・性感染症予防啓発事業 学生15名、教員1名参加				
「評価指標」 ・健康大学しながわ評価表の作成 2回/年 ・品川区大崎第一地域センター連携 3回/年以上 ・品川区立第三日野小学校との連携 3回/年以上 ・東五反田ファーム・エイド 会議年6回 実施1回/年以上 ・住民とともに活動する保健師の会 年間事業への学生・教員協力 青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館 30回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/2ヶ月			「評価指標」 ・健康大学しながわ評価表の作成 2回/年 ・品川区大崎第一地域センター 連携 3回/年以上 ・品川区立第三日野小学校との連携 3回/年以上 ・東五反田ファーム・エイド 会議年6回 実施1回/年以上 ・住民とともに活動する保健師の会 年間事業への学生・教員協力 青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館 30回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/2ヶ月		4. 他県自治体住民の健康対策支援(分析・アドバイザー等) (1) 高知県須崎市チーム須崎プロジェクト事業 高知県児童虐待死亡事例後のプロジェクト運営支援 教員1名 (2) 横浜市泉区思春期保健事業 事業計画策定支援・地域診断支援・研修会講師 教員1名 (3) 仙台市泉区いのちを育むプロジェクト事業 事業計画策定支援・地域診断支援・教育資料作成支援・研修会講師 教員1名 (4) 福島県いわき市いのちを育む教育推進事業 いのちを育む教育推進協議会アドバイザー・講師、事業計画策定支援・地域診断支援・研修会講師 教員1名 (5) 自治体への連携支援(人生を豊かに育むための性・こころ・からだの教育 講師派遣等) 仙台市泉区・福島県福島市・福島県いわき市・千葉県習志野市・千葉県我孫子市・横浜市泉区・高知県須崎市・和歌山県和歌山市				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
					5. 中学・高等学校・特別支援学校への連携支援（人生を豊かに育むための性・こころ・からだの教育 講師派遣等） 小学校2校・中学校13校・高等学校1校・特別支援学校3校 教育委員会主催教育者向け講演会3県 6. 児童養護施設 職員・児童への連携支援（人生を豊かに育むための性・こころ・からだの教育 講師派遣等） 新宿区・鳥取県・広島県・高知県 7. 地域健康づくり研究・教育センター 外部委員（外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会）との連携事業 (1)東京都委託事業への学生・教員協力 年間事業 ・青少年施設（中高生放課後施設）に若者を派遣し教育を行う 「HIV啓発拠点ふぉー・てぃー」事業 42回/年実施 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 80回/年実施 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 学生12名参加 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業の実施 2回/月 ・エイズ・ピア・エデュケーション 都内中学・高等学校10校実施、本校の新入生合宿でも実施、 (2)東京都エイズ・ピア・エデュケーション事業に関するAIDS学会での学会発表 日本AIDS学会学術大会発表 一般演題発表 教員2名参加 (3)「HIV啓発拠点ふぉー・てぃー」事業に関する日本性感染症学会でのシンポジウム登壇・一般演題発表 日本性感染症学会 シンポジスト登壇・一般演題発表 教員1名参加 (3)新宿区役所からの委託事業 性感染症普及啓発アウトリーチ型支援の委託事業 ・動く性感染症保健室として、週3日 各4名体制での新宿歌舞伎町トー横、大久保公園周辺での性感染症予防普及啓発活動 教員2名・職員2名 参加 【地域健康づくり研究・教育センター報告】 https://thcuacjp-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/m-watarai_thcu_ac_jp/EVL40LPn_5BCpXZLSKrfYI1BYDAs-Foge1Y8AqQQP6LDxg?e=IHgdBL				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○医療保健学部医療栄養学科 【計画57-1】㊦ 地域の社会課題を解決するため、積極的に社会貢献活動を推進する。 「計画達成のための方策」 教員と学生が共同し、大学近郊でボランティア活動を行う。 「評価指標」 ・実施テーマ数：6件/年	IV	・今年度は10件の社会貢献活動に2年生から4年生の学生、延べ88名が参加した。引き続き、継続して実施する予定である。 ①学習支援等学校でのボランティア活動：2023年4月から10月 ②玉村園場と連携した野沢こども園での米作りと食育：2023年5月から11月実施 ③スポーツコミュニティよこすか 健康増進イベント：2023年4月29日、5月3日、10月9日実施 ④せたがや福祉区民学会第15回大会でのボランティア活動：2023年11月11日実施 ⑤ケアコム農園祭：2023年6月4日、11月12日実施 ⑥三宿小学校 体験学習：2023年6月10日実施 ⑦世田谷区きたざわまつり 栄養相談ブース：2023年10月22日実施 ⑧第3回世田谷教育総合センターメッセ 体験学習：2023年12月16日実施 ⑨ドナルドマクドナルドハウス せたがやハウス ミールプログラム：2024年3月7日実施 ⑩世田谷区男の料理教室支援：2024年3月21日予定	【年度計画 57-1】 大学近郊でのボランティア活動を継続する。 「評価指標」 ・実施テーマ数：6件/年	Ⅲ	・今年度は16件の社会貢献活動に1年生から4年生の学生、延べ43名が参加した。引き続き、継続して実施する予定である。 ①学校学習支援ボランティア 品川区立第一日野小学校 2024年4月～9月 ②学校学習支援ボランティア 杉並区立井荻小学校 2024年4月～9月 ③学校学習支援ボランティア 足立区立鹿浜五色桜小学校 2024年4月～9月 ④学校学習支援ボランティア 江戸川区立小岩小学校 2024年4月～9月 ⑤よこすかスポーツコミュニティ（北体育会館）「ゴールデンウィーク健康増進イベント」 骨密度測定およびミニ栄養相談 2024年4月29日口 ⑥よこすかスポーツコミュニティ（くりはま花の国）「ゴールデンウィーク健康増進イベント」 骨密度測定およびミニ栄養相談 2024年5月3日 ⑦町田市立忠生第三小学校 ケア環境研究所との食育活動 2024年6月6日 ⑧NPO法人ドナルド・マクドナルド・ハウス「せたがやハウス」付き添い入院をする家族のために提供する夕食メニューの考案、調理 2024年7月18日 ⑨入院中のお子さんに付き添う親御さんを支援（NPO法人キープ・ママ・スマイリング）する「付き添い生活応援パック」の梱包作業 2024年8月26日 ⑩よこすかスポーツコミュニティ（北体育会館）「スポーツの日健康増進イベント」 骨密度測定 2024年10月14日 ⑪せたがや福祉区民学会第16回大会 学会におけるボランティア活動 2024年11月9日 ⑫株式会社ケアコム 第12回農園祭 子供向け食育および収穫食材を使った試食提供 2024年11月10日 ⑬NPOキープ・ママ・スマイリング10周年記念パーティーの受付、誘導 2024年11月29日 ⑭教育総合センターメッセイベント「果物から遺伝子を取り出して見よう」2024年12月21日 ⑮〃神奈川県川崎市宮前区 平老人いこいの家 健康づくり講演会（フレイル、骨粗鬆症予防）および骨密度測定〃 2025年2月8日 ⑯世田谷区若林小学校体験学習「手の衛生管理」2025年2月19日口				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画57-2】㊦ 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修を実施する。 「計画達成のための方策」 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和5年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。 「評価指標」 ・研修の実施状況 ○医療保健学部医療情報学科 【計画58】㊦ 令和3年度に締結した本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働でAIoTの医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。 「計画達成のための方策」 本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働でAIoTの医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。 「評価指標」 ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3件、6名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2件、約60名	Ⅲ	・2023年7月初めにバングラデシュを訪問し、日本とバングラデシュの高齢者介護施設の現状と課題および展望について意見を交換した。また、ダッカの日本語学校での授業を見学し、日本への派遣介護士の養成状況を視察した。さらに、ダッカ郊外の介護施設建築現場を訪問・視察した。 ・2023年9月14日にバングラデシュから日本バングラデシュ友好財団理事長ナイーム先生を当大学に招聘し、バングラデシュの医療事情・介護施設の現況および将来について、当大学で講演していただいた。 ・今後は日本へ受け入れるバングラデシュからの看護補助者、介護士に対する教育・支援を検討していく。	【年度計画57-2】 令和6年度で活動終了 「評価指標」 ・研修の実施状況	Ⅲ	2024年12月にダッカを訪問し、ほぼ完成したバングラデシュ高齢者介護施設の開院式に出席した。当該施設は2025年4月から運営開始とのことであり、今後われわれが可能な支援活動について相談した。また日本語学校での教育状況を視察し、今後N4資格を取得した卒業生が日本へ外国人技能労働者として、日本の介護施設へ送り出す予定計画についても相談した。主要メンバーの退職に伴い、当学科におけるこのWGの活動は今年度で終了する。				
	Ⅳ	・アウトバウンドについては、単位科目として「インターシッ（海外型）」を設定し、学生5名が履修した。また「医療情報ゼミⅡ」の一環として、学生7名が訪問し、台湾医療保健AIoT協会から学生奨励賞を受賞した。 ・インバウンドについては研修受け入れはないものの、総合研究所とも連携してホームケア支援システムの共同開発を行い、その打ち合わせのため台湾側技術者2名の受け入れを複数回行った。 ・その他、本学科教員、他学科教員及び客員教員（NTT東日本関東病院職員）の計3名が、日本医療情報学会内の活動として本学提携先病院を訪問し、合同研究会を開催した。交流機会を大幅に拡大した成果は、2024年度に同学会を通じて書籍として取りまとめる予定である。	【年度計画58】 共同研究計画の検討を行い、日本側、台湾側、いずれかの外部資金に応募する。 （感染が一段落している場合は）学生が台湾を訪問して施設見学する機会を設ける。 「評価指標」 ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3件、6名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2件、約60名	Ⅲ	研修参加者数 8名（学生1名、非常勤教員1名、専任教員4名、学外協力者2名） インターンシップ（海外型）の履修者は少なかったものの、専任教員のFD機会や、学外協力者等の希望により参加が相次ぎ、2年連続で研修を実施することができた。 この間、台湾医療保健AIoT協会との協定を交わし、学部教育に加えて大学院教育にも活動範囲を広げることとした。2025年度以降、台湾における先進的なICT活用事例を、学部・大学院の双方で学べるようにしたいと考えている。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○東が丘看護学部 【計画59-1】 ㊦ 目黒区との共催で実施しているひがしが丘保健室の年間の総来場者数を増加させる。 「計画達成のための方策」 1. ひがしが丘保健室の開催。 2. ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の発行。 3. 出張型ひがしが丘保健室の開催。 「評価指標」 ・ ひがしが丘保健室の年1回開催 ・ ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の年4回の発行 ・ 出張型ひがしが丘保健室の年2回開催 ・ ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：95.0%	Ⅲ	1. 令和5年7月、公衆衛生看護コースM2院生がひがしが丘保健室便りを発行し、地域住民に201部送付した。目黒区内の施設や老人会での配布が可能であったため、追加で区内施設に93部配布した。大学HPに掲載され昨年度よりも周知の幅が広がった。また、昨年度、アンケート回収率の低さから返送時の切手代が回答者の負担となっている可能性を考えたため、評価のためのアンケートの返送を、料金後納郵便を使用したものの、回収率は13%（R4）→16%（R5）と微小な変化であった。発行回数としては1回と少なかったが、Covid-19が5類感染症に移行された後で感染症専門家へのインタビューも含んだ貴重な内容であった。回答者からも具体的でわかりやすいなどの意見があった。アンケート回答者は女性の割合が65%と少し高かったが、96.8%がお便りの内容について「よい」、または「大変良い」と回答していた。一方で、アプリのダウンロード方法を紙面に載せるなどしても高齢者には伝わりにくいという限界もあった。いっそう簡単で理解可能な地域高齢者への情報提供方法の工夫が必要である。 2. 令和5年9月13日（水）午後には、地域住民が21名参加した「ダレデモ・カフェ」、令和5年10月6日（金）午後には46名参加の「支え合い・いどばた会議」と、2回に及び公衆衛生看護コースの院生が目黒区地域高齢者に向けて健康教育の場を得て、脳トレや手遊び等を実施した。目黒区社会福祉協議会との話し合い、要請により、今年度は計画よりも多い2回の実施となった。今回、参加者はとても意欲的な態度で健康教育に参加して下さっていたが、プログラムに住民の感想を聞くなどの評価となる内容が不足していたため、評価は実施者による主体的なものにとどまった。次回以降は感想を聞く時間を設けるなど参加者の意見を大切にして自然な形で評価しPDCAサイクルを意識していきたい。次回以降の課題はあるものの令和5年度計画はおおむね達成していると考えられた。	【年度計画59-1】 1. 小規模出張型のひがしが丘保健室の開催。 2. ひがしが丘保健室の大学での開催。 3. 中間の進捗状況確認と事業評価の実施。 「評価指標」 ・ 小規模出張型のひがしが丘保健室の開催（年1回） ・ ひがしが丘保健室の大学での開催 ・ ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：90.0% ・ 中間の進捗状況確認と事業評価状況	Ⅲ	1. 令和6年度も、10月に2回、地域高齢者に健康教育を実施する機会を得た。自立支援教育特論演習で準備と練習を行った後、高度実践公衆衛生看護コースの院生が参加した。1回目は令和6年度10月9日（水）午後に、東根住区センターで行われたダレデモカフェであり、参加者に脳トレ等の健康教育を実施した。参加者は30名で、20分ほどの時間をいただいた。2回目は10月18日（金）午後に八雲住区センターで実施された目黒区西部地区の支えあい・いどばた会議であった。こちらでも高齢者38名に脳トレ等の健康教育を実施した。実施後質問したところ、「楽しかった人」が28名、「難しかった人」が8名、挙手で教えてくださった。質問などもあり、興味を持って地域の人に参加してもらえたと考えられる。 2. ひがしが丘保健室の大学での開催については、予算や人的要因等多くの課題があり、実施には至らなかった。 3. 学内での対面開催は難しかったものの、昨年度に続き令和6年7月、公衆衛生看護コースM2院生が、健康情報をまとめた「ひがしが丘保健室便り」を発行し、地域住民に189部送付した。目黒区内の施設や老人会での配布が可能であったため、追加で区内施設に71部配布した。また、アンケートは36件（返送20件、オンライン16件）回収率19%であり、昨年度の同様の水準であった（令和5年度回収率：16%）。発行回数としては7回目となり、目黒区で訪問看護ステーションを経営する精神科疾患専門の訪問看護師のインタビューを含んだ貴重な内容であった。アンケート回答者は70代80代が、80%を占めていた。すべての方がお便りの内容、見やすさについて、「よい」または「大変良い」と回答しており（100%）、満足度は高かった。回答は「とても良い」、「良い」、「悪い」、「とても悪い」の4件法で尋ねた。高齢の方々に適した内容と紙面のデザインであったと考えられた。認知症と睡眠に関連があるなど、新しい内容を入れて工夫した。また、区の許可を得て目黒区が実施している物忘れ検診の周知も行った。既によく知られていることのみならず、日常生活で取り入れられる運動や認知症や睡眠の少し新しい知識を学生が丁寧に説明し、地域住民の方々に紹介できたことが良かったのではと思われた。以上のことより、令和6年度計画は概ね達成していると考えられた。お便りで、区の活動を紹介したことで目黒区とも連携することもできた。また地域住民のニーズを分析したことで、次回につなげていきたい。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画59-2】 地域母子保健活動として、妊娠期からの切れ目のない母子への支援をさらに強化する。また、“まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。 「計画達成のための方策」 1. 実施している“まちの助産室”を、妊娠期のパパママ教室、その後、産後・子育て期へと継続的に実施できる体制へと整備し、さらに、大学院教育との連携として、大学院生も参加する。 2. “まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。 「評価指標」 ・中学生に対する思春期性教育の実施状況 ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況 ・まちの助産室：産後クラスの実施状況 ・関連学会での活動の公表状況 ・自治体との連携状況	IV	1-4. 全国の自治体の母子に対して、1回1時間のオンライン母子支援プログラムとして、まちの助産室を企画運営した。内容はベビーマッサージ、童歌、母乳相談、育児相談、座談会を行った。開催数は9回であり参加者数は41組84名（うち双子2組）であった。今年度も昨年と同様に、対面ではなくオンラインに方法で実施した。ICTを用いて育児中の母親の抑うつおよび悩みを軽減することができた。学部生および大学院生が見学し、地域貢献、助産ケアを学ぶ教育機会となった。 ・妊娠期のパパママ教室の代わりに、プレコンセプションケアを大学院生が学部生10名に対して実施した。若い世代の女性とパートナーのためのヘルスケアの教育機会となった。 ・昨年までの実践報告をJapanese Journal of Nursing and Health SciencesおよびThe 26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conferenceで公表した。 自治体との連携として碑文谷保健センターの募集協力を得ることができた。総合病院の産科病棟および産科外来での募集のために臨床のスタッフとも連携ができています。産後支援が必要な母親に対して、産後1か月健診で、まちの助産室参加の案内が行われた。	【年度計画59-2】 1. 中学生に対する思春期性教育の実施を継続する。 2. まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施を継続する。 3. まちの助産室：産後クラスの実施を継続する。 4. 自治体と連携し、参加者を増やして地域貢献につなげる。 「評価指標」 ・中学生に対する思春期性教育の実施状況 ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況 ・まちの助産室：産後クラスの実施状況 ・関連学会での活動の公表状況 ・自治体との連携状況	III	1-4. 諸般の事情により、“まちの助産室”開催を中止した。大学院教育（助産コース）では、助産診断・技術学演習、ウィメンズヘルス演習、助産学基礎実習、助産実践力開発実習の各科目において、集団指導、健康教育を学修している。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画59-3】 大学の国際化を進め地域の国際化に寄与する。 「計画達成のための方策」 1. 学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施する。 2. 海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会を積極的に推進する。 3. 海外の看護系大学と学術交流を推進する。 「評価指標」 ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況	IV	・東が丘看護学部では、3年前から入学生に全員TOEICを受けて頂き、年間2回実施し、2回目以降は自主的に受験している。更に昨年から外国人2人による学生ホールでの「イングリッシュカフェ」を開催し、学部生、大学院生も積極的に参加し学生ホールは英語で賑やかに活気あふれている状況となっている。勿論英語力も向上し、令和5年度全学国際交流委員会主催のオーストラリア研修には学部生は5名と教員1名が参加した。 ・ハワイでNPとして働いている非常勤講師により、学部生はオンライン授業、大学院生は対面で講義を受けた。米国の保健医療制度の特徴などの講義を受け学生達は高い関心を示した。日本と異なる医療制度等に関心が高まった。 ・国際看護学Ⅱを選択した学部学生は、「国境なき医師団」の事務所にコンタクトを取り、自主的に医師の活動状況を直接関係者から聞き、ミャンマーやカンボシアへの支援の実際を確認できた。他のグループの学生も岡山に住む医師からズームで詳細な支援の話を伺い、一時間以上の質疑応答を行い途上国の看護師に対する考えや価値観の多様性を重視することの必要性を認識した。 ・更に大学院生26名は、国立成育医療研究センターの病院長先生から、肝臓の移植手術の研究開発をし、先端医療の提供をするために、個人の時間を使い、ボランティアの精神で、途上国の肝疾患で病んでいる子供たちを助けるために、年間何度も途上国へ出かけ手術を行い、通常の業務に差し支えないように土日や休みを使用し、病む子供たちを助けている実態を聴き、手術方法の研究プロセスを学ぶと共に、世界中に手術方法を広め、難病の子供たちの命を救っている医師の貴重な話を直接聞き、全員が感動し、看護の役割を改めて考えさせられた。学部学生、大学院生共に国際的に活動している日本人医師の講義から視野が広がり、先進国だけでなく途上国の医療の在り方や医療者に対する関心が大いに高まった。	【年度計画59-3】 1. 全学委員会と連携し、学生の海外研修の参加募集・PRを積極的に行う。 2. 現地開催・オンラインの双方に学生が円滑に参加できるよう支援する。 3. 海外からの講師の招聘による講演会はFD委員会等と連携し開催する。 4. オンライン海外研修の評価の学会公表により、多文化共存の研鑽に役立てる。 「評価指標」 ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況	IV	1-4. 東が丘看護学部では、4年前から入学生に全員TOEICを受けていただき、年間2回実施し、2回目以降は自主的に受験している。更に2年前から外国人による学生ホールでの「イングリッシュカフェ」を開催し、学部生、大学院生も積極的に参加し学生ホールは英語で賑やかに活気あふれている状況となっている。勿論英語力も向上し、令和6年度全学国際交流委員会主催のハワイ研修には学部生は3名参加した。・3年次生が1名休学し1年間のオーストラリア語学留学を経験し、2月に帰国した。視野が広くなり良い体験が出来たと報告あり。 ・国際看護学Ⅱを選択した学部学生は、外国人の医療へのアクセスに関する実態を調査するため、街頭インタビューの実施、国立国際医療研究センター国際診療部、NTT東日本関東病院国際診療科、外国人のメンタルヘルスを担うクリニックを訪問し、外国人診療の現状について理解を深めた。またモンゴルでの助産師教育に関わったJICA専門家から話を伺い、途上国等における国際貢献のあり方について学びを深めた。各グループの取り組みや学びは、発表会にて履修した学生に共有された。 ・大学院生27名は、昨年に引き続き国立成育医療研究センターの病院長先生から、肝臓の移植手術の研究開発をし、先端医療の提供をするために、個人の時間を使い、ボランティアの精神で、途上国の肝疾患で病んでいる子供たちを助けるために、年間何度も途上国へ出かけ手術を行い、通常の業務に差し支えないように土日や休みを使用し、病む子供たちを助けている実態を聴き、手術方法の研究プロセスを学ぶと共に、世界中に手術方法を広め、難病の子供たちの命を救っている医師の貴重な話を直接聞き、全員が感動し、看護の役割を改めて考えさせられた。学部学生、大学院生共に国際的に活動している日本人医師の講義から視野が広がり、先進国だけでなく途上国の医療の在り方や医療者に対する関心が大いに高まった。 ・ハワイでNPとして働いている非常勤講師により、学部生はオンライン授業、大学院生は対面で講義を受けた。米国の保健医療制度の特徴などの講義を受け学生達は高い関心を示した。日本と異なる医療制度等に関心が高まった。質問が多数出て関心の高さを理解できた。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○立川看護学部 【計画60】㊦ 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保する。 「計画達成のための方策」 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保するため、学年担任や全学生に対して積極的にPRを進めていくとともに、参加した学生の研修結果をメール配信するなど、学生が興味関心を引くような情報提供や研修参加者の声を伝えていく。 「評価指標」 ・国際交流研修の申し込み状況 ○千葉看護学部・看護学研究科 【計画61-1】㊦ 地域との協働・共生に関する理解を深める。 「計画達成のための方策」 1. 千葉看護学部における『地域連携・共生に関する活動方針』を作成し、活動方針に基づく活動が行われているかを評価する。 「評価指標」 ・検討会開催回数（3回/年）、検討会参加人数（5人/回）、活動評価結果（1回/年） 2. 学生が地域との協働・共生を学ぶ環境を支援する。 「評価指標」 ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4回/年）、各活動の参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）	IV	9月のオーストラリア研修に1年生2名 12月の中国研修に2年生1名 3月のオーストラリア研修に2年生5名、3年生6名の11名 年間で14名の参加者があり、参加者の満足度は高かったようである。	【年度計画60】 国際交流研修の申し込み人数4名をめざす。 「評価指標」 ・国際交流研修の申し込み状況 【年度計画61-1】 1. 『地域連携・共生に関する活動方針』作成委員会において、活動方針を策定する。地域交流イベントにおいて発表ならびに参加者から情報を収集する。 「評価指標」 ・検討会開催回数（2回/年）、検討会参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年） 2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業について、「ふなばし夏のボランティア」の案内を5月に、「マナフェス」ボランティア案内を10月の計2回実掲示した。各活動の参加実績は把握していない。 「評価指標」 ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4回/年）、各活動の参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）	IV	2024年度の国際交流事業として、オンラインでオーストラリア研修が実施されたが、参加者はいなかった。しかし、現地開催されたハワイ研修では1～3年生計5名が参加した。また、リレー講演会には1～4年次生の学生計6名と教員11名が参加した。				
	II	1. 学部FD活動の一環として定期FD報告会において意見交換を行ったが、『地域連携・共生に関する活動方針』作成委員会を設置するには至っていない。地域交流イベントにおいては、参加者を対象とした意見収集を実施した。次年度はワーキンググループを設置し、今年度に収集した意見から焦点化をはかり、中期的な計画を立案する予定とする。	1. 『地域連携・共生に関する活動方針』作成委員会において、活動方針を策定する。地域交流イベントにおいて発表ならびに参加者から情報を収集する。	III	1. 学部FD活動の一環として定期FD報告会において意見交換を行ったが、『地域連携・共生に関する活動方針』について、地域関連活動WGにて方針案を作成している。今後は、将来構想委員会で、補足・洗練を図っていく。				
	III	2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業について、「ふなばし夏のボランティア」の案内を5月に、「マナフェス」ボランティア案内を10月の計2回実掲示した。各活動の参加実績は把握していない。	2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業やボランティア案内などの情報提供を行う。	IV	2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業、1) 10月「八木が谷地区社会福祉協議会福祉まつり」、2) 11月「ふなばし健康まつり」、3) 12月「マナフェス12月に」ボランティア案内を行った。各イベントへの参加者は1) 学生11名、教員1名、2) 教職員4名と学生23名、3) 学生39名、ちばもの学生11名、教員3名であった。ふなばし健康まつりでは本学ブースに182名の来場者があった。なお、船橋市保健課主催の「シェフズクッキング 日本クラムチャウダー選手権2連覇のシェフに学ぶ！船橋ネギとホンビノス貝のあったか山海鍋～おうちで簡単シェフの味～」の紹介を掲示を行い船橋市の活動に協力した。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
3. 地域貢献及び地域に本学を理解してもらうために地域交流イベントを開催する。 【評価指標】 ・地域交流イベント参加人数（100人）、参加学生数（100人）、参加教員数（20人）、参加者の満足度（満足度70%以上）	IV	3. a-1) 11月5日 ふなばし健康まつりに学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。参加人数は教職員9名、学生32名でした。 ・a-2) 地域交流イベント2023を3月24日に開催し254名の参加者があった。 ・b-1) 船橋市まつりへの参加、および地域交流イベントの広報活動により船橋市地域包括ケア推進課、保健福祉課、地域福祉課、船橋市社会福祉協議会、船橋市教育委員会、船橋市自治会、船橋市民生児童委員協議などと顔の見える関係構築ができた。	3. a. 前年度の振り返りを反映し、船橋市の地域住民・行政・保健福祉機関等と大学がより交流できるイベントを計画・実施・評価する。 b. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会のメンバーと情報交換を行う。 【評価指標】 ・地域交流イベント参加人数（100人）、参加学生数（100人）、参加教員数（20人）、参加者の満足度（満足度70%以上）	III	3. a) 地域交流イベント2024を3月9日に開催し287名の参加者があった。教職員38名、学部学生78名、大学院生7名が参加した。来場者アンケート結果では満足とほぼ満足が88%であった。 ・b-1) 船橋市まつりへの参加、および地域交流イベントの広報活動により船橋市地域包括ケア推進課、保健福祉課、船橋市社会福祉協議会、船橋市自治会、船橋市民生児童委員協議などと顔の見える関係構築ができた。				
4. 学部及び教員が地域のリソースとして活用される仕組みを整え、活用が促進される。 【評価指標】 ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1件/年）、JCHOや関連施設からの講師依頼件数（1件/年）、勉強会等の実施回数（1回/年）、各参加者の満足度（70%以上） 【計画61-2】 学際的な共同研究や海外研修等を促進し、成果を発表する。	III	4. a. 教員がリソースとして活用される仕組みについては、令和4年度、5年度ともに仕組みとしての検討を行うことができなかった。ただし、領域や教員個々の活動として地域のリソースとして多くの活用がされた。次年度はこの実績が大学ビジョンに向かって発展できるよう「仕組み」化について検討することが課題である。 b. 高校からの模擬授業の依頼6件および高校からの依頼による大学見学を2件実施した。いずれも参加者の満足度は高かった。	4. a. 前年度の評価に基づき、教員がリソースとして地域で活用されることを促す。 b. 学生募集部・事務部と協働し、高校訪問に模擬授業等のニーズを把握し、適切な教員を派遣する。 【評価指標】 ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1件/年）、JCHOや関連施設からの講師依頼件数（1件/年）、勉強会等の実施回数（1回/年）、各参加者の満足度（70%以上）	III	4. a. 令和6年度も、領域や教員個々の活動として地域のリソースとして活用されており、次年度は、教員がリソースとして活用される仕組みは、この状況を把握することから着手することとしていく。 b. 高校からの模擬授業の依頼3件および高校からの依頼による大学見学を1件実施した。いずれも参加者の満足度は高かった。				
【計画達成のための方策】 1. 複数領域、学外者及び学際的な共同研究への参加を促進し、成果を発表する。 【評価指標】 ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数 2. 海外研修や学外研修への参加を促進し、その成果について共有する。	III	1. 学部活動報告会を実施し、ポスター展示を通じて研究・学内外活動について総合的に情報共有した。 ・複数領域の共同研究：課題件数8件、発表5件 ・学外者との共同研究：課題件数36件、発表20件 ・学際的な共同研究：課題件数10件、発表4件 2. a. 本学主催の海外研修の参加を推奨し、9月と3月のオーストラリアグリフィス大学の準備・運営を以下の通り、行った。 ・9月：オンライン研修の募集、事前準備・研修中のサポート、千葉学生2名、教員3名で支援 ・3月：現地研修の募集、事前準備のサポート、教員による現地引率、千葉学生10名、引率教員1名、支援教員2名 「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。 「バングラデシュの医療 ・ 介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。 中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。 b. 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ成果共有を2024年前期に行う予定である。	【年度計画61-2】 1. 年度末の学部活動報告会等で情報共有を行う。 【評価指標】 ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数 2. a. 本学主催の海外研修の参加を推奨する。国際交流委員会が把握するイベントや単発の研修会等の情報発信を行う。 b. 年度末の学部活動報告会で情報共有を行う。	IV	1. 学部活動報告会を実施し、ポスター展示を通じて研究・学内外活動について総合的に情報共有した。 ・複数領域の共同研究：課題件数15件、学会発表7件、論文発表1本 ・学外者との共同研究：課題件数44件、学会発表20件、論文発表8件 ・学際的な共同研究：課題件数11件、学会発表6件 2. a. 本学主催の海外研修の参加を推奨し、9月オーストラリアグリフィス大学/3月ハワイ研修の準備・運営を以下の通り、行った。 ・9月：オンライン研修の募集、事前準備・研修中のサポートを実施した（全学参加者：16人） ・3月：現地研修の募集、事前準備のサポートを実施した（千葉看護学部4名参加） 「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。 b. 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【評価指標】 ・研修参加者（教員1名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/FD報告会）、成果共有による評価 【計画61-3】㊦ 千葉看護学研究科として住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 「計画達成のための方策」 地域交流イベントにおいて、学生を主体とする企画を実施し、主として西船橋地区住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 【評価指標】 専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数 【計画61-4】㊦ 千葉看護学研究科の教職員の教育力を開発する。 「計画達成のための方策」 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、多文化共存を視野に入れた研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。 【評価指標】 大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の開催回数、地域貢献力に関する報告の数 ○和歌山看護学部・看護学研究科 【計画62-1】㊦ 臨地実習での多職種連携場面での学びの促進を図るとともに、多職種との交流によりチーム医療を実践できる医療人を育成する。 「計画達成のための方策」 1. 学内教育においては臨地からの多職種の教育参加により、臨地での意図的な多職種連携の体験する機会をつくる。 2. 多職種・他大学学生とチーム医療・他職種連携の体験を共有する機会を設ける。 【評価指標】 ・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況	Ⅲ <								

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画62-2】㊦ 地域の教育機関、保健医療福祉施設、自治体等との共同体制の下、医療・福祉・保健面における社会貢献を積極的に推進する。 「計画達成のための方策」 1. 本学部の社会貢献の実践・可能性を発信し、異分野の大学との共同研鑽を行うとともに地域のニーズに応じた社会貢献を実践する。 2. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に参画する。 【評価指標】 ・情報発信と社会貢献の実践数、ICTを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況 ○助産学専攻科 【計画63】㊦ キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 「計画達成のための方策」 1. 学生が地域貢献できる学修環境の実現。 2. 連携・共生の在り方を学ぶ。 3. 大学キャンパス内の地域活動の貢献とともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指す整備する。 4. 医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。 「評価指標」 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回／年	IV	1. SNSを用いた情報発信に重点を置き、事務局が中心となり、教職員で連携し活動を展開した。 2. ICT活用は各種のツールの活用が進んでいる。 3. 教員共同研究に複数応募し1件が採択された。 ・コンソーシアムにおいて採択され教員の近隣大学との共同研究が採択された。学生共同研究は応募できなかった。	【年度計画62-2】 1. 本学部の活動を発信する。 2. ICTを活用した会議の効果的な活用を行う。 3. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に応募し、1件以上採択を得る。 4. 県看護協会の委員会活動、研修会講師等で積極的に支援する。 5. 市と共催の公開講座の定期的開催を継続する。 6. 県・市・地域からのボランティア要請に協力する。 【評価指標】 ・情報発信と社会貢献の実践数、ICTを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況 ・委員会数、研修会講師受諾数、公開講座開催有無、ボランティア参加数	IV	1. 情報発信と社会貢献の実践数；SNSでの発信数 投稿47、ストーリー27であった。 2. ICTを活用した会議数；9割以上の会議がZOOMを利用したハイブリットであった。 3. コンソーシアム和歌山の学生共同研究採択は1件であった。 4. 県看護協会 ファーストレベル1回、臨床指導者講習会2回、新人看護師の講習会1回、新人看護師の技術研修会1回の計5回講師を受諾した。 5. 和歌山市と共同で公開講座を開催した。 6. ボランティア参加数は延べ295名であった。				
	IV	年度計画1～3を通して下記の学びに繋がった。 活動範囲が拡大し、いろいろな場で活動や体験することにより、 ・20名全学生が、助産学実習Ⅴの一環として、産後ケア研究センターの見学実習を体験でき、地域における母子の現状を理解でき、医療機関にはできない訪問型や日帰り型、電話相談などのきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制に触れ、地域母子保健における課題の明確化に繋がった。 ・また助産学実習Ⅳでは、地域の母子を対象とした1～2か月および3～4か月の母子支援クラスを企画運営、開催し、母親のメンタルヘルスの支援や児の発達評価など実践し、学生は実際の体験から学ぶと共に、参加者の満足度も高く、地域の母子に対するケアへの貢献に繋がった。 ・助産学研究を通して論文作成をし、発表に至れるよう行動している。	【年度計画63】 活動の継続と拡大を図る。 1. 活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2. 母子支援に関する論文投稿を行う。 3. 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型、外来機能などへの拡大を検討する。 「評価指標」 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回／年	Ⅲ	1. 活動の広報：企業参加の集会や日本母性衛生学会学術集会等で産後ケアのシンポジウムを開催し、大学として設置している産後ケア活動のアピールができた。このような活動を助産師基礎教育の中に取り込み、教授活動している。また、助産学専攻科の助産学実習にも産後ケアや地域活動の授業や演習を取り入れ、産後ケアの学内および品川区の地域活動にも実習として地域参加させている。 2. 母子支援に関するシンポジウム内容の投稿を学会誌に投稿ができ、これも助産学専攻科の授業・演習・実習に取入れ教授活動している。 3. 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型、外来機能などへの拡大の内容を産後ケア研究センターに実習させ体験させることができている。将来の地域活動の教育を図れている。 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回／年 助産実習1週間ずつ、20名全員が実習に行けている。 ・育児クラスとして品川区在住の母子（父親含む）を1・2か月の母子、3・4か月の母子を対象に約10名ずつ3回企画・運営し貢献できた。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○和歌山助産学専攻科 【計画64】㊦ 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。 「計画達成のための方策」 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、医療情報学科の教授を講師に迎え、あらゆるICTを駆使し遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。 「評価指標」 ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況 ○感染制御学教育研究センター 【計画65】㊦ 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を継続する。 「計画達成のための方策」 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。 「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数	IV	・ガイダンスで意義を説明し、全員が選択した。今年度の授業アンケートは閲覧できなかったが、学生全員が意識して取り組んだものと思われる。	【年度計画64】 ガイダンスで「遠隔診療技術の基礎」の選択の必要性を説明し、学生全員が履修又は聴講する。 「評価指標」 ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況	IV	・令和6年度は学生9名の内8名の履修登録があり、聴講を希望し、全員受講した。実習とのバッティングする学生もあったが、録画を視聴する事で全員遠隔診療技術の実際を学ぶ機会となり臨床の場で活用出来る基礎を習得した、その事で地域の医療を考える礎となることが期待出来る。				
「計画達成のための方策」 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。 「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数	III	・「感染制御実践看護学講座」では募集人数20名に対し45名の申請者があり、受講試験の結果23名を合格とした。23名は所定の課程を修了し、「感染制御実践看護師」の資格を取得した。 ・「感染制御学企業人支援講座」については例年どおり募集を行ったが、応募者がなかった。 ・「感染制御実践看護学講座」「感染制御学企業人支援講座」の需要数について今後検討していく。	【年度計画65】 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。 「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数	III	・「感染制御実践看護学講座」では募集人数20名に対し20名の申請者があり、受講試験の結果19名を合格とした。19名は所定の課程を修了し、「感染制御実践看護師」の資格を取得した。 ・「感染制御学企業人支援講座」については例年どおり募集を行ったが、応募者がなかった。 ・「感染制御実践看護学講座」「感染制御学企業人支援講座」の内容の検討及び需要数について今後検討していく。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議																																																			
○産後ケア研究センター 【計画66】㊦ 大学キャンパス内外の地域活動に貢献するとともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備するとともに、医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。 「計画達成のための方策」 1. 産前産後ケア事業〔助産師による専門的支援の実施（訪問型）〕の推進。 2. 品川区役所や産科医療機関との連携強化事業の強化（情報交換など）を図る。 「評価指標」 ・日帰り型 190件／年→280件／年への増加 ・訪問型 200件／年→280件／年への増	Ⅲ	1. 訪問型は、報酬が6000円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000円の追加を実施している。 2. 日帰り型はホテルの閉鎖に伴い、8月からの荏原保健センター内での産後ケア室の開設に至るまでの期間、品川保健センター内での実施となった。仮設での実施のため、一時期利用が減少したが、8月以降の正式な開設後は利用者が増加傾向にある。訪問型は増加している。次年度以降の事業拡大に向けて、区との調整や準備を行った。 「評価指標」実施件数 <table><thead><tr><th></th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>・日 帰</td><td>162</td><td>228</td><td>223</td><td>107</td></tr><tr><td>・訪 問</td><td>127</td><td>194</td><td>202</td><td>240</td></tr><tr><td>・電話相談</td><td>925</td><td>367</td><td>348</td><td>288</td></tr></tbody></table>		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	・日 帰	162	228	223	107	・訪 問	127	194	202	240	・電話相談	925	367	348	288	【年度計画66】 活動の継続と拡大を図る。 1. 活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2. 母子支援に関する論文投稿を行う。 「評価指標」 ・日帰り型 190件／年→280件／年への増加 ・訪問型 200件／年→280件／年への増	Ⅳ	1. 活動の広報：企業参加の集会や日本母性衛生学会学術集会等で産後ケアのシンポジウムを開催し、大学として設置している産後ケア活動のアピールができた。今後も学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2. 母子支援に関するシンポジウム内容の投稿を学会誌に投稿ができた。 3. 令和6年4月より、日帰り型・訪問型が各1回であったものが5回まで使用可となったため、準備はしていたが件数が大幅に増加して従事者の確保や訪問バックや自転車などの必要物品の補充等、調整・整備を行った。 評価指標 年度別の実施件数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th></tr></thead><tbody><tr><td>日帰り型</td><td>259</td><td>525</td><td>162</td><td>228</td><td>231</td><td>107</td><td>330</td></tr><tr><td>訪問型</td><td>304</td><td>344</td><td>127</td><td>194</td><td>228</td><td>240</td><td>773</td></tr><tr><td>電話相談</td><td>316</td><td>639</td><td>925</td><td>367</td><td>376</td><td>288</td><td>493</td></tr></tbody></table>	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	日帰り型	259	525	162	228	231	107	330	訪問型	304	344	127	194	228	240	773	電話相談	316	639	925	367	376	288	493			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																																																								
・日 帰	162	228	223	107																																																								
・訪 問	127	194	202	240																																																								
・電話相談	925	367	348	288																																																								
年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024																																																					
日帰り型	259	525	162	228	231	107	330																																																					
訪問型	304	344	127	194	228	240	773																																																					
電話相談	316	639	925	367	376	288	493																																																					